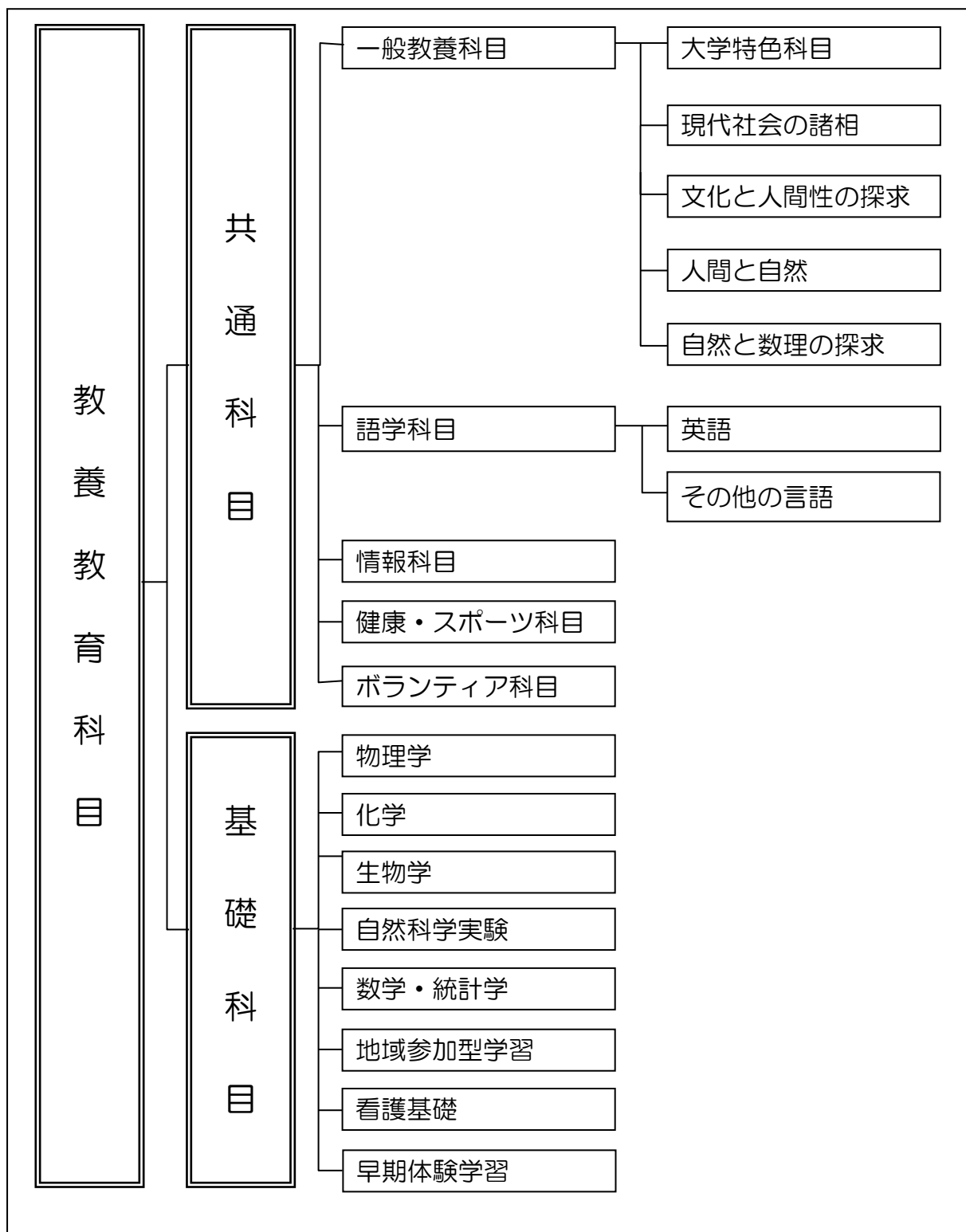


3 教養教育科目の概要

「教養教育科目」は7学部共通の授業科目群で構成されています。

このうち「大学特色科目」には、『初年次教育科目』が設置されています。全学の教育力を結集した初年次教育科目を積極的に選択してください。

また、それぞれの区分において履修すべき科目および単位数、必修・選択の別などについては、所属学部の履修規程に定められています。詳細は後掲「6 教養教育科目における修得必要単位数及び進級要件」及び専門教育履修要項を参照してください。



5 教養教育カリキュラム

下記一覧表中、「●」＝必修科目、「○」＝選択科目、「自」＝自由科目、*印＝指定科目
「●」「○」「自」いずれも記載がない科目は、その学部のカリキュラム外の科目となりますので、履修できません。

【履修に関する注意事項】

- (1) 一般教養科目（大学特色科目、現代社会の諸相、文化と人間性の探求、人間と自然、自然と数理の探求）及び語学科目（英語）は抽選対象科目のため、履修登録の方法が通常とは異なりますので注意してください。
- (2) 自由科目は進級・卒業要件の最低必要単位数には算入されませんが、他の選択科目と同様に履修し、試験に合格すれば単位を修得することができます。
- (3) 履修登録者数が少数の場合、非開講となる場合があります。

(1) 授業科目及び配当年次、単位数

一般教養科目 大学特色科目

(抽選対象科目)

授業科目（副題）	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
* NCUラーニング・コンパス	講義	1	前	1	●	●	●	●	●	●	●	●	
ヘルシーライフ	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
キャリアデザインA (キャリア形成に備えた学び)	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	前期 2クラス開講
キャリアデザインB (キャリアに関わる学び)	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
SDGsを考える：医療系	初年次	講義	1	前	2	自	○	○	○	○	○	○	
SDGsを考える：自然系		講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	集中講義
SDGsを考える：数理情報系		講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	
SDGsを考える：社会科学系		講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	
SDGsを考える：人文系		講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	
名古屋市政を通してみる現代社会の諸問題		講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	
科学館・博物館・美術館から知る名古屋		講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	名古屋市教育委員会との連携講義
近世名古屋の歴史		講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	
大学生から始めるESD	講義	1		2	○	○	○	○	○	○	○	2025年度 非開講	
まちづくり論	講義	1		1	○	○	○	○	○	○	○	2025年度 非開講	
キャリアデザイン（実践編）	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	後期 2クラス開講	
起業家になる	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	集中講義	
地域社会で活躍する女性	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○		
ワークライフバランスとダイバーシティ	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○		
多文化共生と国際貢献	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	名古屋国際センター連携講義	
持続可能な社会と私たち	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○		
ESDと地域の環境	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	中部ESD拠点連携講義	
次世代エネルギーワークショップ	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	集中講義	
ソーシャル・デザイン実践編	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	集中講義	

一般教養科目 現代社会の諸相

(抽選対象科目)

授業科目 (副題)	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
日本国憲法	講義	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	前期・後期ともに開講
なぜ憲法が必要なのか	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
現代社会と法	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
知的財産権入門	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	自	○	日本弁理士会東海支部との連携講義
人と法と医療	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
国民所得はどう決まるか?	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
ゲームの状況を科学する	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
公共政策：暮らしの社会科学	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
はじめての経営学	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
企業診断ABC	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
社会科学のデータ分析	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
社会学A	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
社会学B	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
社会学C	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
新聞報道の現場から	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	読売新聞との連携講義
人間の行動・心理と建築	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
平和論	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
私たちの暮らしと政治・行政・地方自治	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
国際政治	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
比較政治史	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
シティズンシップ入門	講義	1		2	○	○	○	○	○	○	○	○	2025年度 非開講
地域力を高めるひとつづくり	講義	1		2	○	○	○	○	○	○	○	○	2025年度 非開講

一般教養科目 文化と人間性の探求

(抽選対象科目)

授業科目 (副題)	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
日本文化の理解	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
人類学	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	前期 2クラス開講
日本語コミュニケーション	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
囲碁に学ぶ	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	日本棋院との連携講義
ヨーロッパの文化と歴史	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
文化に見る歴史	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
アメリカ史入門	講義	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	前期・後期ともに開講
都市と地域構造の地理学	講義	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	前期・後期ともに開講
音楽と文化	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
デザインと情報	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	自	○	
人間と表現	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	集中講義
自分とみんなで考える哲学	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
応用倫理学	講義	1		2	○	○	○	○	○	○	○	○	2025年度 非開講
心理学概論	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
心理学入門	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
西洋の教育と哲学	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
次世代育成と地域の課題	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
デジタル時代の人文学	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
世界を理解するための宗教学	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
日本の宗教の歴史と文化	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
キー・コンピテンシー	講義	1		2	○	○	○	○	○	○	○	○	2025年度 非開講

一般教養科目 人間と自然

(抽選対象科目)

授業科目 (副題)	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
科学史	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
環境と社会・制度・政治・経済	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
環境科学	講義	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	名古屋市環境局環境科学調査センターとの連携講義：前期・後期ともに開講
植物の多様性と環境	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	自	○	集中講義
動物とヒトの進化多様性	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	自	○	
社会と医学	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
くすりと社会	講義	1	後	2	○	○	○	自	○	○	○	○	
都市と自然	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
健康と生活	講義	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	集中講義及び後期に開講
リハビリテーション概論	講義	1	後	2	○	○	自	○	○	○	○	○	
行動生態学	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	集中講義

一般教養科目 自然と数理の探求

(抽選対象科目)

授業科目 (副題)	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
教養として知っておきたい様々な病気	講義	1	前後	2	自	○	○	○	○	○	○	○	前期・後期ともに開講
創薬と生命	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
宇宙のなりたち	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	自	
植物とバイオテクノロジー	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
エネルギーのサイエンス	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
バイオサイエンス入門	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
情報と数理の世界	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	自	
データサイエンスへの誘い	講義	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	前期・後期ともに開講
地球史入門	講義	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	前期・後期ともに開講
地域生態学	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	

語学科目 英語

(抽選対象科目)

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
A	IS: Community	演習	1	前後	1	○	○	○	○	○	○	○	区分Aの科目は各学期の 〔前半〕〔後半〕で、それ ぞれ全8回で完結します。
	IS: Social Justice	演習	1		1	○	○	○	○	○	○	○	
	IS: Life & Work	演習	1		1	○	○	○	○	○	○	○	
	IS: Health & Well-being	演習	1		1	○	○	○	○	○	○	○	
	IS: The Arts	演習	1		1	○	○	○	○	○	○	○	
B	AE: Make a Difference in Your Community	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	
	AE: Interact Internationally	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	
	AE: Improve Life Skills	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	
	AE: Raise Health/Environmental Awareness	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	
	AE: Produce a Movie	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	
C	CS: Presentation	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	英語力調査 (TOEIC L&R IP) の結果に 基づき熟度別クラス編成を行います。
	CS: Grammar and Usage	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	
	CS: TOEIC Preparation	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	
	CS: Writing	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	
D	EM: World News	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	
	EM: Popular Culture	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	
	EM: Reading for Inspiration	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	
	EM: Online Articles and Videos	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	

《英語プログラム内容紹介》

◆ **区分A: Issues in Society (Lectures & Discussion)**

◆ **区分B: Action in English**

ネイティブ教員が担当し、授業はすべて英語で行われます。概ねTOEIC 500点以上の学生を想定した授業を行います。

スコアは目安として提示しているものであり、英語力調査 (TOEIC IP) のスコアが500点未満だと受講できないということではありません。興味、学ぶ意欲のある学生は、ぜひチャレンジしてください。

◆ **区分C: Core Skills in English**

CS: Grammar and UsageとCS: TOEIC PreparationはTOEIC IPのスコアを基にした習熟度別クラス編成となります。
CS: PresentationとCS: Writingはネイティブ教員が担当します。

◆ **区分D: English through Media**

科目 (クラス) によってTOEIC推奨スコアが提示される場合がありますので、科目選択の参考にしてください。

* <英語力調査 (TOEIC L&R IPテスト) について>

本学では、学生の英語コミュニケーション能力を測るため、全学部1年生を対象とした「英語力調査 (TOEIC L&R IPテスト)」を4月当初に実施しています。テスト結果は、1年次における教養英語科目 (区分 C) のクラス編成に使用します。

TOEIC (Test of English for International Communication) は、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。英語力を客観的に証明する指標として進学や就職など様々な場面で活用されています。本学で実施しているTOEIC IPテストとは、TOEICと同様の試験内容のテストを本学主催で行うものです。

語学科目 その他の言語

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
ドイツ語初級1	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	「その他の言語」の修得必要単位として算入できます。
ドイツ語初級2	演習	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
フランス語初級1	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
フランス語初級2	演習	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
中国語初級1	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
中国語初級2	演習	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
韓国語初級1	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
韓国語初級2	演習	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
スペイン語初級1	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
スペイン語初級2	演習	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
日本手話初級1	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
日本手話初級2	演習	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
ポルトガル語入門	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
ロシア語入門	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
イタリア語入門	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
アラビア語入門	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
日本語上級1	演習	1	前	2				○	○	○	○	○	
日本語上級2	演習	1	後	2				○	○	○	○	○	
ドイツ語初級会話1	演習	1	前	2	自	自	自	自	○	○	○	自	《経済学部》 《人文社会学部》 《芸術工学部》 「その他の言語」の修得必要単位としては算入できませんが、卒業必要単位として算入することができます。
ドイツ語初級会話2	演習	1	後	2	自	自	自	自	○	○	○	自	
フランス語初級会話1	演習	1	前	2	自	自	自	自	○	○	○	自	
フランス語初級会話2	演習	1	後	2	自	自	自	自	○	○	○	自	
中国語初級会話1	演習	1	前	2	自	自	自	自	○	○	○	自	
中国語初級会話2	演習	1	後	2	自	自	自	自	○	○	○	自	
日本語レポート作成1	演習	1	前	2				自	○	○	○	自	
日本語レポート作成2	演習	1	後	2				自	○	○	○	自	
日本語リーディング・リスニング1	演習	1	前	2				自	自	自	自	自	
日本語リーディング・リスニング2	演習	1	後	2				自	自	自	自	自	
日本語プレゼンテーション1	演習	1	前	2				自	自	自	自	自	
日本語プレゼンテーション2	演習	1	後	2				自	自	自	自	自	
日本語ライティング1	演習	1	前	2				自	自	自	自	自	
日本語ライティング2	演習	1	後	2				自	自	自	自	自	
日本語ディスカッション1	演習	1	前	2				自	自	自	自	自	
日本語ディスカッション2	演習	1	後	2				自	自	自	自	自	

- 注) 1 それぞれの母語を履修することはできません。
 2 以下の日本語科目を履修できるのは外国人特別学生(留学生)に限ります。
 ・日本語上級1、2
 ・日本語リーディング・リスニング1、2
 ・日本語ライティング1、2
 ・日本語レポート作成1、2
 ・日本語プレゼンテーション1、2
 ・日本語ディスカッション1、2
 3 各言語の「初級2」を履修するためには、同じ言語の「初級1」を履修中または履修済みであることが必要です。

情報科目

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
医療統計学基礎	※	1	前	1	●								※講義及び演習
情報リテラシー	※	1	前	1	●	●	●	●	●	●	●	●	※講義及び演習
データサイエンス・リテラシー	※	1	後	1	自	●	●	●	●	●	●	●	※講義及び演習
デジタル表現基礎	※	1	前	1							●		※講義及び演習

健康・スポーツ科目

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
*健康・スポーツ科学	講義	1	前	1	●	●	●	●	●	●	●	●	
健康・スポーツ実技	実技	1	後	1		自				自		自	保育士・教職課程履修学生に限る

ボランティア科目

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
ボランティア科目1	実習	1	随時	1	自	自	自	自	○	○	自	自	
ボランティア科目2	実習	1	随時	1	自	自	自	自	○	○	自	自	

物理学

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
物理学基礎	講義	1	前	2				● 一自				○	《薬学部》大学入学共通テストでの「物理」を選択していない者は必修、受験者は自由。
力学	講義	1	前	2	○			○				○	
電磁気学	講義	1	後	2	○			○				○	
波動・熱力学	講義	1	後	2	○							○	

化学

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
化学概論	講義	1	前	2				○					
化学基礎	講義	1	前	2								○	
化学熱力学基礎	講義	1	前	2				○				○	
有機化学	講義	1	後	2	○							○	
生体分子化学	講義	1		2	○								2025年度 非開講

生物学

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
基礎生物学	講義	1	前	2	○							○	
生物学基礎	講義	1	前	2				● 一自					《薬学部》大学入学共通テストでの「生物」を選択していない者は必修、受験者は自由。
生物学	講義	1	後	2	○			○				○	

自然科学実験

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
* 自然科学実験	実験	1	後	1	○			●				●	

数学・統計学

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
* 微分積分学	講義	1	前後	2	○			○					学部により前期または後期
* 線形代数学Ⅰ	講義	1	前	2	○			○				●	
線形代数学Ⅱ	講義	1	後	2	○			○				○	
* 数学AⅠ	講義	1	前	2					○				
* 数学BⅠ	講義	1	前	2					○				
* 数学AⅡ	講義	1	後	2					○				
* 数学BⅡ	講義	1	後	2					○				
* 統計学A	講義	1	前	2					○				
統計学B	講義	1	後	2					○	○		○	
微分積分基礎	講義	1	前後	2								●	学科により前期または後期
線形代数基礎	講義	1	前後	2								●	学科により前期または後期
微分積分基礎演習	演習	1	前後	1								●	学科により前期または後期
線形代数基礎演習	演習	1	前後	1								●	学科により前期または後期
数学A	講義	1	後	2			○						
数学B	講義	1	後	2			○						
確率統計学	講義	1	前	2			○						

注) 「線形代数学Ⅱ」「数学AⅡ、BⅡ」を履修するためには、各科目の「Ⅰ、1」を履修中または履修済みであることが必要です。

地域参加型学習

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
名古屋市立大学多職種連携教育：基礎	演習 実習	1	通年	2	●	●	●	●					《薬学部》薬学科は必修
地域連携参加型学習	演習	1	後	2					○	○	○		一部集中講義として開講

看護基礎

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
基礎科学	講義	1	前	2		●							
家族社会学	講義	2	後	2		●							

早期体験学習

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
生命薬科学研究入門	演習	1	通年	2				●					生命薬科学科は必修

6 教養教育科目における修得必要単位数及び進級要件

2025 年度入学生にかかる教養教育の修得必要単位数は以下のとおりです。

(1) 医学部(医学科)

ア 修得必要単位数

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数及び必修科目					
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	3 単位	1 単位	NCU レーニング・コンパス (1)	左記以外に「一般教養科目」又は「その他の言語」の区分の選択科目から 2 単位以上 (a 参照)	
				2 単位			
		現代社会の諸相	4 単位 (b 参照)				
		文化と人間性の探求					
		人間と自然	2 単位				
	自然と数理の探求						
	語学科目	英語	6 単位 (c 参照)				
		その他の言語	2 単位 (d 参照)				
	情報科目		2 単位	情報リテラシー(1) 医療統計学基礎(1)			
	健康・スポーツ科目		1 単位	健康・スポーツ科学(1)			
ボランティア科目 (e 参照)							
基礎科目	物理学	4 単位					
	化学						
	生物学						
	数学・統計学	4 単位					
	地域参加型学習	2 単位	名古屋市立大学多職種連携教育：基礎(2)				
合 計		3 2 単位					

※必修科目については各科目区分に科目名(単位数)を記載しています。

※自由科目の単位は修得必要単位数に含めることはできません。

- 教養教育科目の修得必要単位数(32単位)を充たすためには、各科目区分の最低修得必要単位数のほか、「一般教養科目」又は「その他の言語」の選択科目から2単位以上の修得が必要です。
- 単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て2単位まで、修得科目の内容に応じて一般教養科目「現代社会の諸相」又は「文化と人間性の探求」のいずれかに算入することができます。
- 外部機関が実施する検定試験(実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL)の獲得点数に基づいて、英語科目の単位として最大4単位まで認定を受けることができます。詳細はp.16を確認してください。
- それぞれの母語を履修して「その他の言語」の卒業必要単位とすることはできません。
- ボランティア科目は自由科目です。

イ 2年次への進級要件

1年次終了時において、アに定める修得必要単位32単位の全てを修得していない者は2年次に進級できません。

専門教育にも同様に進級要件が設けられており、年次進級に際しては両方の要件を満たさなければなりません。専門教育における要件については医学部「専門教育履修要項」を参照してください。

(2) 医学部(保健医療学科看護学専攻)

ア 修得必要単位数

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数及び必修科目			
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	3 単位	1 単位 NCU ラーニング・コンパス(1) 2 単位	
		現代社会の諸相	4 単位	(a 参照)	
		文化と人間性の探求			
		人間と自然	4 単位		
	自然と数理の探求				
	語学科目	英語	6 単位 (b 参照)		
		その他の言語	4 単位 (c 参照)		
	情報科目	2 単位	情報リテラシー(1) データサイエンス・リテラシー(1)		
	健康・スポーツ科目	1 単位	健康・スポーツ科学 (1)		
ボランティア科目 (d 参照)					
基礎科目	地域参加型学習	2 単位	名古屋市立大学多職種連携教育：基礎(2)		
	看護基礎	2 単位	基礎科学(2)		
		2 単位	家族社会学(2)		
合 計		30 単位			

※必修科目については各科目区分に科目名(単位数)を記載しています。

※自由科目の単位は修得必要単位数に含めることはできません。

- a 単位互換事業により他大学において修得した単位は、教授会の議を経て2単位まで修得科目の内容に応じて「大学特色科目」を除く一般教養科目のいずれかの区分に算入することができます。
- b 外部機関が実施する検定試験(実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL)の獲得点数に基づいて、英語科目の単位として最大4単位まで認定を受けることができます。詳細はp.16を確認してください。
- c それぞれの母語を履修して「その他の言語」の卒業必要単位とすることはできません。
- d ボランティア科目は自由科目です。

イ 3年次への進級要件

(1) 教養教育については進級要件の定めがありませんが、専門教育では定められています。

専門教育における要件については看護学部「専門教育履修要項」を参照してください。

(2) 2年次以降は専門科目の履修や各種実習にかかる時間的制約により、教養科目の再履修が非常に困難になるため、配当された学年・学期に確実に修得するよう心掛けてください。

(3) 医学部(保健医療学科リハビリテーション学専攻)

ア 修得必要単位数

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数及び必修科目			
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	3 単位	1 単位 NCU ラーニング・コンパス (1) 2 単位	左記以外に2単位以上
		現代社会の諸相	4 単位		
		文化と人間性の探求			
		人間と自然	2 単位		
	自然と数理の探求				
	語学科目	英語	6 単位 (b 参照)		
		その他の言語	4 単位 (c 参照)		
	情報科目	2 単位	情報リテラシー(1) データサイエンス・リテラシー(1)		
健康・スポーツ科目	1 単位	健康・スポーツ科学(1)			
ボランティア科目(d 参照)					
基礎科目	数学・統計学	4 単位			
	地域参加型学習	名古屋市立大学多職種連携教育：基礎(2)			
合 計		30 単位			

※必修科目については各科目区分に科目名(単位数)を記載しています。

※自由科目の単位は修得必要単位数に含めることはできません。

- a 単位互換事業により他大学において修得した単位は、教授会の議を経て2単位まで修得科目の内容に応じて「大学特色科目」を除く一般教養科目のいずれかの区分に算入することができます。
- b 外部機関が実施する検定試験(実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL)の獲得点数に基づいて、英語科目の単位として最大4単位まで認定を受けることができます。詳細はp.16を確認してください。
- c それぞれの母語を履修して「その他の言語」の卒業必要単位とすることはできません。
- d ボランティア科目は自由科目です。

イ 2年次への進級要件

1年次終了時において、アに定める修得必要単位30単位うち28単位を修得していない者は2年次に進級できません。

専門教育にも同様に進級要件が設けられており、年次進級に際しては両方の要件を満たさなければなりません。専門教育における要件については医学部保健医療学科リハビリテーション学専攻「専門教育履修要項」を参照してください。

(4) 薬学部

ア 修得必要単位数

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数及び必修科目		
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	3単位 1単位 NCUラーニング・コンパス(1) 2単位	
		現代社会の諸相	4単位(a参照)	
		文化と人間性の探求		
		人間と自然	2単位	
	自然と数理の探求			
	語学科目	英語	6単位 (b参照)	左記には 区分A 又は 区分B の2単位を含むこと
		その他の言語	2単位(c参照)	
	情報科目	2単位	情報リテラシー(1) データサイエンス・リテラシー(1)	
健康・スポーツ科目	1単位	健康・スポーツ科学(1)		
ボランティア科目(f参照)				
基礎科目	物理学(d参照)	大学入学共通テストで「物理」を選択していない場合 物理学基礎(2)		
	生物学(d参照)	大学入学共通テストで「生物」を選択していない場合 生物学基礎(2)		
	化学	4単位		
	数学			
	自然科学実験	1単位	自然科学実験(1)	
	地域参加型学習	2単位	【薬学科】 名古屋市立大学多職種連携教育：基礎(2)	
早期体験学習	【生命薬科学科】 生命薬科学研究入門(2)			
合 計		31単位		

※必修科目（一部選択必修科目）については各科目区分に科目名（単位数）を記載しています。

※自由科目の単位は修得必要単位数に含めることはできません。

- a 単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て4単位まで、修得科目の内容に応じて一般教養科目「現代社会の諸相」又は「文化と人間性の探求」のいずれかに算入することができます。
- b (1) 外部機関が実施する検定試験（実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL）の獲得点数に基づいて、英語科目の単位として最大4単位まで認定を受けることができます。詳細はp.16を確認してください。
(2) 「英語」の「区分A」「区分B」に該当する科目はp.22の科目一覧を確認してください。
- c それぞれの母語を履修して「その他の言語」の卒業必要単位とすることはできません。
- d 「物理学」及び「生物学」の必修科目について
- 大学入学共通テストでの「物理」受験者が「物理学基礎」を履修した場合は自由科目となります。
 - 大学入学共通テストでの「生物」受験者が「生物学基礎」を履修した場合は自由科目となります。
 - 大学入試共通テストを課さない選抜方法により入学した場合には、高校で履修した科目や大学入試共通テストの受験科目を事前に大学が確認し、必修となる科目を指定します。
- e 「物理学」「生物学」「化学」「数学」については、各科目区分の最低修得必要単位数を含め、4区分の合計で8単位以上の修得が必要です。
- f ボランティア科目は自由科目です。

イ 2年次への進級要件

1年次終了時において、アに定める修得必要単位31単位のうち、「健康・スポーツ科学」1単位及び「自然科学実験」1単位並びに「名古屋市立大学多職種連携教育：基礎」2単位又は「生命薬科学研究入門」2単位を含め29単位以上を修得していない者は2年次に進級できません。

※31単位は修得必要単位数の表に記載された各科目の単位数の合計を基にしたものであり、単純な修得単位数の合計ではありません。必修科目の修得には特に注意をはらってください。

※これは教養教育における進級要件です。

専門教育にも同様に進級要件が設けられており、年次進級に際しては両方の要件を満たさなければなりません。専門教育における要件については薬学部「専門教育履修要項」を参照してください。

(5) 経済学部

ア 修得必要単位数

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数及び必修科目		
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	5 単位	1 単位 NCU ラーニング・コンパス (1) 4 単位
		現代社会の諸相	8 単位	
		文化と人間性の探求		
		人間と自然	4 単位	
	自然と数理の探求			
	語学科目	英語	6 単位 (b 参照)	
		その他の言語	4 単位 (c 参照)	
	情報科目	2 単位	情報リテラシー(1) データサイエンス・リテラシー(1)	
健康・スポーツ科目	1 単位	健康・スポーツ科学(1)		
ボランティア科目				
基礎科目	数学・統計学	数学 6 単位 統計学 2 単位		
	地域参加型学習			
合 計		4 2 単位		

左記以外に 4 単位以上 (a 参照)

※必修科目（一部選択必修科目）については各科目区分に科目名（単位数）を記載しています。
※自由科目の単位は修得必要単位数に含めることはできません。

- a 教養教育科目の修得必要単位数（4 2 単位）を充たすためには、各科目区分の最低修得必要単位数のほか、共通科目又は基礎科目の選択科目から 4 単位以上の修得が必要です。
単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て 2 単位まで、修得科目の内容に応じて上記に示した区分に算入することができます。
- b 外部機関が実施する検定試験(実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL)の獲得点数に基づいて、英語科目の単位として最大 4 単位まで認定を受けることができます。詳細は p. 16 を確認してください。
- c (1) それぞれの母語を履修して「その他の言語」の卒業必要単位とすることはできません。
(2) 各言語の「会話 1、2」「日本語レポート作成 1、2」を履修したことにより修得した単位は「その他の言語」の修得必要単位数には算入されませんが、上記 a (1) に示した修得必要単位数 4 単位に算入することができます。

イ 3 年次への進級要件

2 年次終了時において、アに定める修得必要単位数 4 2 単位のうち、下記の必要単位数を修得していない者は 3 年次に進級できません。

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数	
共通科目	一般教養科目	5 単位	NCU ラーニング・コンパス (1)
	外国語科目	英語	4 単位
		その他の言語	2 単位
	情報科目	2 単位	情報リテラシー(1) データサイエンス・リテラシー(1)
健康・スポーツ科目	1 単位		
基礎科目	数学・統計学	数学 6 単位・統計学 2 単位 ただし、外国人特別学生は数学・統計学合わせて 6 単位	
合 計		2 2 単位 ただし、外国人特別学生は 2 0 単位	

※これは教養教育における進級要件です。

専門教育にも同様に進級要件が設けられており、進級に際しては両方の要件を満たさなければなりません。専門教育における要件については経済学部「専門教育履修要項」を参照してください。

(6) 人文社会学部(心理教育学科・現代社会学科)

ア 修得必要単位数

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数及び必修科目			
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	5 単位	1 単位 NCU ラーニング・コンパス (1) 4 単位	左記以外に 10単位 以上 (a参照)
		現代社会の諸相	4 単位		
		文化と人間性の探求			
		人間と自然	4 単位		
		自然と数理の探求			
	語学科目	英語	6 単位 (b 参照)		
		その他の言語	4 単位 (c 参照)		
	情報科目	2 単位	情報リテラシー(1) データサイエンス・リテラシー(1)		
健康・スポーツ科目	1 単位	健康・スポーツ科学(1)			
ボランティア科目					
基礎科目	数学・統計学				
	地域参加型学習				
合 計		3 6 単位			

※必修科目については各科目区分に科目名(単位数)を記載しています。

※自由科目の単位は修得必要単位数に含めることはできません。

- a 教養教育科目の修得必要単位数(36単位)を充たすためには、各科目区分の最低修得必要単位数のほか、共通科目又は基礎科目の選択科目から10単位以上の修得が必要です。
単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て4単位まで、修得科目の内容に応じて上記に示した区分に算入することができます。
- b (1)外部機関が実施する検定試験(実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL)の獲得点数に基づいて、英語科目の単位として最大4単位まで認定を受けることができます。詳細はp.16を確認してください。
(2)英語を母語とする外国人特別学生は、英語を履修して卒業必要単位とすることはできません。この場合、英語科目の卒業必要単位は、教養教育科目及び専門教育科目において、英語科目及び英語関係科目以外で修得した単位をもって充当することができます。
- c (1)それぞれの母語を履修して「その他の言語」の卒業必要単位とすることはできません。
(2)各言語の「会話1、2」「日本語レポート作成1、2」を履修したことにより修得した単位は「その他の言語」の修得必要単位数には算入されませんが、上記a(1)に示した修得必要単位数10単位に算入することができます。

(7) 人文社会学部(国際文化学科)

ア 修得必要単位数

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数及び必修科目					
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	5 単位	1 単位	NCU ラーニング・コンパス (1)	左記以外に4単位以上 (a 参照)	
				4 単位			
		現代社会の諸相	4 単位				
		文化と人間性の探求					
		人間と自然	4 単位				
	自然と数理の探求						
	語学科目	英語	1 2 単位 (b 参照)	区分 A から 4 単位、区分 B から 4 単位を含めて 12 単位			
		その他の言語	4 単位 (c 参照)				
	情報科目		2 単位	情報リテラシー(1) データサイエンス・リテラシー(1)			
健康・スポーツ科目		1 単位	健康・スポーツ科学(1)				
ボランティア科目							
基礎科目	数学・統計学						
	地域参加型学習						
合 計		3 6 単位					

※必修科目については各科目区分に科目名（単位数）を記載しています。

※自由科目の単位は修得必要単位数に含めることはできません。

- a 教養教育科目の修得必要単位数（36 単位）を充たすためには、各科目区分の最低修得必要単位数のほか、共通科目又は基礎科目の選択科目から4 単位以上の修得が必要です。
単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て4 単位まで、修得科目の内容に応じて上記に示した区分に算入することができます。
- b (1) 外部機関が実施する検定試験(実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL)の獲得点数に基づいて、英語科目の単位として最大4 単位まで認定を受けることができます。詳細はp. 16を確認してください。
(2) 「英語」の「区分A」「区分B」に該当する科目はp. 22の科目一覧を確認してください。
(3) 英語を母語とする外国人特別学生は、英語を履修して卒業必要単位とすることはできません。この場合、英語科目の卒業必要単位は、教養教育科目及び専門教育科目において、英語科目及び英語関係科目以外で修得した単位をもって充当することができます。
- c (1) それぞれの母語を履修して「その他の言語」の卒業必要単位とすることはできません。
(2) 各言語の「会話1、2」「日本語レポート作成1、2」を履修したことにより修得した単位は「その他の言語」の修得必要単位数には算入されませんが、上記 a (1) に示した修得必要単位数4 単位に算入することができます。

(8) 芸術工学部

ア 修得必要単位数

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数及び必修科目			
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	5 単位	1 単位 4 単位	NCU ラーニング・コンパス (1)
		現代社会の諸相	2 単位 (b 参照)		
		文化と人間性の探求			
		人間と自然	2 単位		
		自然と数理の探求			
	語学科目	英語	6 単位 (c 参照)		
		その他の言語	4 単位 (d 参照)		
	情報科目	3 単位	情報リテラシー(1) データサイエンス・リテラシー(1) デジタル表現基礎(1)		
	健康・スポーツ科目	1 単位	健康・スポーツ科学(1)		
ボランティア科目 (e 参照)					
基礎科目	数学・統計学	6 単位	微分積分基礎(2) 微分積分基礎演習(1) 線形代数基礎(2) 線形代数基礎演習(1)		
	地域参加型学習				
合 計		31 単位			

※必修科目については各科目区分に科目名(単位数)を記載しています。

※自由科目の単位は修得必要単位数に含めることはできません。

- a 教養教育科目の修得必要単位数(31単位)を充たすためには、各科目区分の最低修得必要単位数のほか、共通科目又は基礎科目の選択科目から2単位以上の修得が必要です。
- b 単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て2単位まで、修得科目の内容に応じて一般教養科目「現代社会の諸相」又は「文化と人間性の探求」のいずれかに算入することができます。
なお、専門科目として認定を希望する場合は、芸術工学部履修要項を参照してください。
- c 外部機関が実施する検定試験(実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL)の獲得点数に基づいて、英語科目の単位として最大4単位まで認定を受けることができます。詳細はp.16を確認してください。
- d (1)それぞれの母語を履修して「その他の言語」の卒業必要単位とすることはできません。
(2)各言語の「会話1、2」「日本語レポート作成1、2」を履修したことにより修得した単位は「その他の言語」の修得必要単位数には算入されませんが、上記aに示した修得必要単位数2単位に算入することができます。
- e ボランティア科目は自由科目です。

イ 4年次への進級要件

3年次終了時において、アに定める修得必要単位31単位のうち、下記の必要単位数を修得していない学生は4年次に進級できません。

教養教育科目及び専門教育科目の修得単位数が、必修科目においては3年次までに配当されている授業科目単位数の8割以上、選択科目においては卒業要件単位数の6割以上であること。

<参考>教養教育科目における必修科目 9科目 11単位
NCU ラーニング・コンパス(1) 情報リテラシー(1) データサイエンス・リテラシー(1)
デジタル表現基礎(1) 健康・スポーツ科学(1) 微分積分基礎(2) 線形代数基礎(2)
微分積分基礎演習(1) 線形代数基礎演習(1)

※これは教養教育における進級要件です。

専門教育にも同様に進級要件が設けられており、年次進級に際しては両方の要件を満たさなければなりません。専門教育における要件については芸術工学部「専門教育履修要項」を参照してください。

(9) 総合生命理学部

ア 修得必要単位数

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数及び必修科目			
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	3 単位	1 単位 NCUラーニング・コンパス (1) 2 単位	左記以外に 2 単位 (a 参照)
		現代社会の諸相	4 単位		
		文化と人間性の探求			
		人間と自然			
	語学科目	英語	6 単位 (b 参照)		
		その他の言語	4 単位 (c 参照)		
	情報科目		2 単位	情報リテラシー (1) データサイエンス・リテラシー (1)	
	健康・スポーツ科目		1 単位	健康・スポーツ科学 (1)	
	ボランティア科目 (d 参照)				
	基礎科目	物理学	2 単位		
化学		2 単位			
生物学		2 単位			
自然科学実験		1 単位	自然科学実験 (1)		
数学・統計学		2 単位	線形代数学 I (2)		
合 計		3 9 単位			

※必修科目については各科目区分に科目名 (単位数) を記載しています。

※自由科目の単位は修得必要単位数に含めることはできません。

- a 教養教育科目の修得必要単位数 (3 9 単位) を充たすためには、各科目区分の最低修得必要単位数のほか、一般教養科目の選択科目から 2 単位以上の修得が必要です。
単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て 2 単位まで、修得科目の内容に応じて上記に示した区分に算入することができます。
- b 外部機関が実施する検定試験 (実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL) の獲得点数に基づいて、英語科目の単位として最大 4 単位まで認定を受けることができます。詳細は p. 16 を確認してください。
- c それぞれの母語を履修して「その他の言語」の卒業必要単位とすることはできません。
- d ボランティア科目は自由科目です。

イ 3 年次への進級要件

2 年次終了時において、アに定める修得必要単位 3 9 単位のうち以下の必修科目を含む 3 5 単位以上を修得していない者は 3 年次に進級できません。

NCU ラーニング・コンパス (1)、情報リテラシー (1)、データサイエンス・リテラシー (1)、健康・スポーツ科学 (1)、自然科学実験 (1)、線形代数学 I (2)